

(一般質問)

質問日	令和7年12月5日(金)			質問方式	分割方式		
質問順位	3	会派名	自由民主党浜松	議席番号	15	氏名	神間 郁子
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 若者の声を形にするための取り組みについて	<p>元気なまち・浜松の実現には、浜松が若者に選ばれるとともに、その活力を地域活性化につなげていくことが重要である。今年度、大学生広聴事業として初めて「2025 大学生未来V I S I O N」を聖隷クリストファー大学で行った。市長との直接の意見交換の機会は若者にとって貴重な体験であり、市政への興味関心を持つきっかけになると考える。様々な取り組みによって、若者から得られた意見や提案を、政策策定や実行に移し形にしていくことが重要である。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 大学生広聴事業「2025 大学生未来V I S I O N」について、市長の所感と今後の方向性を伺う。</p> <p>(2) 高校生や大学生といった若者と接点を持ち、意見や提案を政策策定や実行に移し、若者を応援する市内組織の確立が必要であると考えがいかがか。</p>						中野市長
2 若者と協働センターとのつながりについて	<p>元気なまち・浜松、元気な地域のためには、若年層の地域活動への参加が重要なカギとなることから、各地域の協働センターが、これまで比較的つながりが少ない若年層と地域をつなぐ役割を担っていくことが重要であると考え。</p> <p>今年の「2025中学生未来V O I C E」では、市主催の講座やイベントを活性化させ、誰もが興味のある分野を学び、体験できる機会を創出すること、また地域ボランティアやワークショップを開催することなど、魅力ある協働センターとなるよう、提言があった。</p> <p>若者とのつながりの強化や、中学生のニーズにあった多様な学びの機会の提供を推進する必要があることから、以下伺う。</p> <p>(1) 協働センターの機能強化の一つとして、コミュニティ担当職員を増員しているが、中学生の声をどのように把握し、形にしているのか伺う。</p> <p>(2) 中学生にとって魅力ある生涯学習の機会を提供することに関して、市の方針を伺う。</p>						水谷市民部長 嶋野文化振興 担当部長
3 地域に残る旧市町村の看板の維持管理について	<p>浜名区や天竜区には、旧市町村により設置された多くの看板が存在する。</p> <p>こうした看板の安全対策や維持管理については市が責任をもって引継ぎ、対応するものと考えているが、老朽化した看板の必要性の判断が難しく、さらに設置者が不明</p>						

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>となる看板もあることで、効率的な対応ができていない状況にある。</p> <p>合併20年、地域に残る老朽化した旧市町村設置の看板の維持管理について、設置当時の思いを大切にしようとして、市が責任をもって丁寧に取り組むべきと考える。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 旧市町村設置の看板の安全対策や修繕といった、維持管理について、以下伺う。</p> <p>ア 観光看板に関する考え方について</p> <p>イ 文化財関連の看板に関する考え方について</p> <p>(2) 天竜区における、旧市町村設置の看板の維持管理について伺う。</p> <p>(3) 現在、観光看板台帳が存在するが、管理不全の看板を発生させないために、台帳の精査や看板の点検が必要と考えるが、方針を伺う。</p>	<p>中村観光・ブランド振興担当部長</p> <p>嶋野文化振興担当部長</p> <p>仲井天竜区長</p> <p>中村観光・ブランド振興担当部長</p>
<p>4 浜松市フルーツパークの活用の方 向性について</p>	<p>浜松市フルーツパークは開園から約30年、指定管理者制度による施設運営も12年が経過している。この間、コロナ禍による、来園者数の減少も、指定管理者の創意工夫などで乗り越えてきたことと思うが、施設や樹木の老朽化や近年の酷暑など、指定管理者が対応できる状況ばかりではなくなっている。</p> <p>同施設は、市の農業、特に果樹の持つ魅力を広く伝え、農業振興に資する重要な施設と考えることから、以下伺う。</p> <p>(1) 浜松市フルーツパークの現在の状況と劣化診断調査の結果について</p> <p>(2) 2026年には、開園30周年という節目を迎えるが、今後の活用の方向性について</p>	<p>下位農林水産担当部長</p>
<p>5 リ・デザインの 進捗について</p>	<p>2025年2月定例会一般質問において、「地域公共交通の再構築に向けた取り組み」について質問した。その際、「リ・デザインに向けて連携、実施していく協定を交通事業者と締結し今年度から検討をはじめ、概ね3年をかけて利便性向上に資する計画を策定する」との答弁があった。</p> <p>現在のリ・デザインの進捗状況と今後の見通しについて伺う。</p>	<p>濱田都市整備部長</p>
<p>6 都田地区の生活 道路における安全 対策について</p>	<p>都田地区周辺地域では、第三都田新産業集積地域を中心に通勤車両が集中し、朝夕のピーク時には地区内の生活道路を抜け道として利用する車両が一定数存在する。</p>	<p>平井土木部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>急勾配や鋭角な交差点など、変則で危険な交差点もあることから、これら生活道路への安全対策が急がれる。</p> <p>都田地区の生活道路における、抜け道利用など生活道路の安全対策と、市道都田50号線と市道浜北宮口南80号線との交差点対策について伺う。</p>	
<p>7 太陽光パネルのリサイクルについて</p>	<p>2025年8月、国は、太陽光パネルのリサイクル義務化法案の提出を断念した。</p> <p>太陽光パネルの寿命は20年から30年と言われており、国では、太陽光パネルの推計排出量は2040年代前半には、年間最大50万トン程度まで達すると見込んでいる。本市も同様の傾向が推測されることから、それまでに、リサイクルの実証やリサイクル設備の設置などに取り組み、太陽光パネルのリサイクル日本一を目指して動き出す必要がある。</p> <p>国の太陽光パネルのリサイクルに向けた関係法令の行方を見据えつつ、危機感をもって今できる備えをすべきであることから、以下伺う。</p> <p>(1) 本市の太陽光発電設備の導入状況について</p> <p>(2) 本市の太陽光パネルのリサイクルに向けた取り組みについて</p>	<p>鈴木カーボンニュートラル推進担当部長</p>
<p>8 災害時応援協定について</p>	<p>災害時応援協定は、市と民間事業者または他行政機関との間で、災害時における物資の支援や人の支援についてあらかじめ約束を取り交わし、災害時における協力を確保するものであり、共助の取り組みとして注目されている。</p> <p>実際の災害時に、協力体制が十分機能することが重要であり、締結後も平時よりその点を確認し、行動に移せるように調整しておく必要がある。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 本市における、災害時応援協定の現状について</p> <p>(2) 発災時を想定した平時からの協定事業者との具体的な取り組みについて</p>	<p>清水危機管理監</p>